

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

なな

4月号
vol. 110



巻頭特集

なな 隣木館

「アナログな矢印」
北津守3丁目付近にて撮影

おとなりさん ① 総持寺いのち・愛・ゆめセンター

大阪府茨木市では、隣保事業を実施する施設＝隣保館を「いのち・愛・ゆめセンター」（以下、「あいセンター」と略称）と呼び、そのあり方をめぐって10年来、さまざまな議論が積み重ねられてきた。市直営で運営されている隣保館は、わたしたちから見ると良好な環境に見えるのだが、現実はなかなか厳しいようである。

今回は市内に3箇所ある施設のうち総持寺「あいセンター」を訪ね、センター事業の一翼を担うNPOの元気を教えていただいた。しかし、その前に「あいセンター」をめぐる茨木市の状況に触れないわけにはいかない。以下は、北場好信さん（M-CANスタッフ）と塩見康司さん（総持寺いのち・愛・ゆめセンター館長）のお話と合わせて、3

月12日にしなり隣保館「スマイルゆ〜とあい」で開催された「これからの隣保館・隣保事業のあり方を考えるシンポジウム」（主催：部落解放同盟大阪府連合会隣保事業・地域運動推進本部）の配布資料を参考にしている。

写真左：北場さん 右：塩見さん



昨年12月にオープンした「スマイル ゆ〜とあい」は西成発の民営隣保館。それはセツルメントに由来し、貧困、孤立・差別、排除など複合的・重層的な課題を抱えた住民に寄り添いながら、これらの困難に取り組み隣保事業を行ってきました。このような拠点施設が減少しつつある昨今、『なび』は大府内をはじめ全国の隣保館ルネッサンス活動に励む「おとなりさん」を訪ね、ええとこ取りをしていきます。

おとなりさんプロジェクト
飯島・西田・若松・佐々木

巻頭特集

茨木市の隣保館「あいセンター」をめぐる状況

前茨木市長の任期中（2004～12年）、06年の事件を機に大阪府内では同和行政のあり方が問われるようになった。その見直しはおおむね事業の縮小という方向に舵を切っていた。茨木市でも青少年センターの廃止や部局の改組、センター職員の大規模減員がなされた。さらに11年には「公の施設使用料免除団体審査会」で「あいセンター」は公民館・コミュニティセンターと同一区分とされ、解放同盟は「免除基準団体不承認」と判断される（道祖本・沢良宜・中城の茨木三支部はこれに提訴）。ところが12年4月、新市長が就任すると、「免除団体非該当は前市長のやり過ぎなので是正する」という意向が表明され、13年に和解に至る。

昨年15年は、「あいセンター」のあり方をめぐって議論が交わされると同時に、実質的にあり方を変革する動きがみられた。プロポーザルで「あいセンター」の特別事業」や「茨木市中学生学習・生活支援事業」を地域のNPO「M-CAN」が受託し、隣保館の機能を地域組織が補強していく体制づくりが一層すすめられた。同年9月には「あいセンター」の指定管理条例が議会に提案された。この提案は賛成少数で否決されたが、12月、茨木市人権尊重のまちづくり審議会により「いのち・愛・ゆめセンターあり方検討部会」が設置され、目下、地域の実態に即したセンターのあり方を検討しているところである（16年6月にとりまとめの予定。詳細は次のURLで確認できろ。http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/shimin/jinken/menu/jinken_shisaku/jinken_shingikai.html）。

これまで直営で運営されてきた隣保館「あいセンター」の運営を模索しているようである。しかし、その主旨は少々込み合っているようなので、筆者なりに言い換えてみると――あらゆる差別の解消という課題に対する行政の責任を踏まえれば、本来的には館の運営を含む隣保事業の実施は市の直営でなされて然るべきである。しかしこの

10年間の(同和)行政の撤退」という状況下で「直営」に拘っていても地域社会に存在する課題に対して身動きが取れなくなってしまう。ならば、いつそのこと指定管理制度も含め、地域組織で事業を受託し地域課題の解決に取り組んでいく。——このように言えるのではないかと。行政だけに責任を押し付けるのではなく共に担っていかう、また自らの実践に今日的なスタイルを取り入れ、広く社会にその存在意義を認知してもらおう、という積極的な姿勢のあらわれと理解できる。

総持寺での実践 —M・C・A・Nの活動

総持寺「あいセンター」は阪急京都線「総持寺駅」より徒歩で5分強の閑静な住宅街の中に所在する。近い将来、JRにも新駅が建設される予定で、地区の利便性はますます高まることだろう。

総持寺には、早くから「三島校区」で地域の福祉や教育にかかわる取り組みを実践してきたNPO法人三島コミュニティ・アクションネットワーク

クが存在する(2003年11月設立)。「Mishima Community Action Network」の頭文字をとって命名された愛称「M・C・A・N」(ミカン)はとても覚えやすい素敵な名前だ。M・C・A・Nはみかん栽培の事業もしていると勘違いしている取材スタッフもいた。早合点と言えはそれまでだが、たしかに、「なんで総持寺で『みかん』なんだろう?」と筆者も疑問をいだいた。親しみやすさのなかにちよつとした謎を練り込んだ抜群のネーミングだと感心した。

M・C・A・Nは「あいセンター」のすぐ近くの「みかん屋」というコミュニティハウスに事務所を構えているが、センターも活動拠点になっている。数ある事業のなかで今回ご紹介いただいたのは、街かどデイハウス「日向」(ひなた)と地域子育て支援拠点「こえんひろば」であった。

北場さんの案内で「日向」におうかがいした。10名ほどの地域の高齢者がワイワイと団らんされており、とても暖かな雰囲気だった。毎日さまざまな催しがあり、「本当に楽しい」「もう14年間ずっと来ている」と語る方たちの息が弾んでいる。その雰囲気は専従スタッフの人柄に

負うところが大きいのだろう。発行物の「日向ニュース」もあえて手書きにしているそう、雰囲気づくりの工夫と言えそうである。

つづいて、近くのマンションの1階に入居している地域子育て支援拠点「こえんひろば」に案内してくれた。「connectio n e n j o y (つながりを楽しもう)」という思いを込めて設立されたこの拠点では、5組ほどの母子(乳幼児を抱える在宅親子)が談笑されており、突然の訪問者が場を乱しているようでやや恐縮した。ここでも専従スタッフの明るい笑顔が印象的だった。快活というだけでなく、人との交流を大切にしてきたキャリアに裏打ちされた頼もしさを滲ませていた。

総持寺のええとこ —事業を支える スタッフの活躍

これらの現場を見て、相談の傾向に関する北場さんのご指摘に思い当たった。「あいセンター」やM・C・A・Nに寄せられる相談の内容をみると、相談に来る

人びとが窓口を使い分けているらしい。「あいセンター」に相談する人は「ちよつとええカッコしてくる」。つまり、プライベートとはちよつと距離を置いて相談をしたいとき、あるいは行政的な手続きをたずねに来るときは「よそ行き」のスタンスなのだそうである。一方、M・C・A・Nに持ち込まれる相談は、日常生活のプライベートに関するものが多く、カミングアウトを含むような相談も寄せられる。

また、北場さんの話では、相談を寄せられる経路にもちがいがあがある。「あいセンター」には匿名の電話相談が一定数あるが、M・C・A・Nは地域のネットワーク(人脈)を経て相談に来ることが多い。また「相談件数は相談員に依拠している。」とも話されていた。専従スタッフが運営する「日向」や「こえんひろば」が、日常の相談ごとを拾い上げるアンテナショップになっているのではないだろうか。これらの事業を支えるスタッフが地域に住む人びととの出会いを大切な「縁」にし、結果的に潜在的な課題へのアウトリーチに繋がっている。そんな構図が描けるような気がした。(文責:若松 司)



(左)「こえんひろば」はマンションの1階に入居している。(右)「こえんひろば」の様子と専従スタッフ。



(左)「日向」の様子と専従スタッフ。(右)みかん屋。第4土・日は、お米や手作り野菜を販売する「みかん屋市」がたつ。

きんこん がこん

ver.1.1

居場所と出番になってるで！ 西成よみかき教室

ちよっと路線変更します。これまで、地域の小中高を取材しそれぞれで創意工夫した取り組みを教えてくださいました。これからは学校以外でも地域で行われている教育に関する団体・施設・取り組みを紹介していきます。

10時間目:よみかき教室



ホワイトボードを使って漢字の学習をしている様子

よみかき教室って？

西成の識字よみかき・日本語教室(以下、よみかき教室)は部落解放同盟西成支部の識字運動がきっかけとなり、1967年に始まりました。当初は識字学級として長橋市民館で開催されていました。その後、運動の中で何度も名称変更、引越しを重ね、現在は市民交流センターにになり水曜、木曜の18〜20時に開催されています。小学生から83歳まで、現在の登録者は約70人とのこと。見学した3月10日には「学習者」と呼ばれる20人ほどの生徒の方が「学習パートナー」と呼ばれるボランティアの方と学習されていました。約10年前から教室の運営に関わっている川辺康子さんに、話を聴きました。

多様化している地域の実態

よみかき教室が識字学級と呼ばれていた約50年前は、差別や経済的な問題で学校に通えなかったことが主な理由でした。これについては解放運動の歴史として様々な文多様化している地域の実態

ないなど。すべては書ききれませんが、学習者の数だけ様々な思いを持たれて毎週、教室に通われています。

教室に通っている小学生の中には、よみかきを学ぶだけでなく、放課後によみかき教室で計算ドリルの宿題をするといった形で、「居場所」の役割も果たしていました。また、相談を通じて知り合った外国人のお母さんが赤ちゃんを抱いて日本語を学んでおられました。話をうかがった川辺さんが相談に関わったケースから、教室に来てもらうことも多いそうです。

4月から「ゆくとあい」で

よみかき教室開始！

ところで、これまで教室を行っていた市民交流センターにしなりは2016年3月末で閉館されました。それにともない、この4月からは民設民営の「ゆくとあい(にしなり隣保館)」に引越しました。日本語教室とよみかき教室では開始日が違いますので、詳しくは、06-6561-8801(担当…川辺)までお問合せください。

レポート…沖田一志・寺嶋公典



居場所と出番の教室

分な教育を受けられないまま結婚と出産をして子育てをしているが、子どもが持つプリントの内容がわからない、子どもに宿題を聞かれてもわから

献、資料がありませんのでそちらをご参照ください。今回話を聞いてみると、現在教室に通われている学習者のよみかきに不自由な理由が多様化していることを知りました。大きく分けて、①若い頃の差別や経済的な理由により学校で勉強できなかった高齢者、②不登校などで学生時代に十分に学校で勉強できなかった若者、③在日社会で日本語に触れることなく過ごしていた在日コリアンを中心とした外国人、④結婚などで日本に住むことになった外国人の4つに分類されます。教室に参加された理由は様々です。ある学習者は、病院や銀行で自分の名前や住所の記入を代筆していた子どもが結婚し離れたため、また他の学習者は、学校で十



(左) 3月で教室を卒業する山本さんと地元中学校の先生方 (右) 学習者と学習パートナーをつなぐ川辺さん



[寺嶋公典]長女と次女の結婚祝賀会は泣いてしまった。4月から三女がいなくなるので、いろんな人に「また泣くやろ」と言われている。確かに泣いてしまうイメージしか浮かばない。

[沖田一志]PCの仮想化って知ってます？いつも使ってるWindowsやMacで別の仮想PCを稼働させます。1台のPCで様々な環境を構築できて、めっちゃ便利です。何が便利って？分かりますか？



副館長による施設・設備案内

今後、検証会での結果を運営や体制に反映していくために、「運営・設備・接客検討委員会」を開催し、外部の学識経験者の意見も加味した、ポリシーやガイドライン、マニュアルの作成にむけて動いています。委員会では「現状の対応だけではなく、向こう10年先を見据えたものはできないか?」「民間事業者の取組の参考となるものになれば。」という声もあり、

社会全体で考え、模索するために

「iPadなど利用する障がい者も増えているので活用しては?」など。想定できるとも多々あり、簡単に合理的な改善策を提案していただきました。また「何かお手伝いできることはありませんか?」というスタッフの一言で対応できることも多いことがわかりました。



**国際障害者交流センター
(ビッグ・アイ)**

大阪府堺市南区茶山台1-8-1
☎ 072-290-0965 (担当:坂谷)
<http://www.big-i.jp/>

文責:坂谷恵司・小森利絵

「ビッグ・アイだからできること」にとどまらないよう、情報発信や啓発冊子制作も予定しています。

法律の施行は「今ある社会」を見つめ直し、社会側にある「生きづらさ」に気づききっかけとなるのではないのでしょうか。ビッグ・アイでは、「誰もが」わかりやすい、使いやすい、つたえやすいについて考え、その取り組みが社会づくりにおいてもヒントになればと思っています。

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

国際障害者交流センター
VOL.25
ビッグ・アイ



本号が発行される2016年4月に『障害者差別解消法』が施行されます。ビッグ・アイでは「合理的配慮のあるサービスって何だろう?」と新たな取り組みを始めています。社会側にある「生きづらさ」を取り除く方法とこちらに「できること」の妥協点を模索しています。今回はそんな様子をご紹介します。



共生社会のモデル施設として

今年4月より『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』が施行されました。すべての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、互いに人格と個性を尊重して共生する社会をめざした法律です。そのために「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮」(障がい者から意思表示がある場合、障壁を取り除く配慮を行うこと)を義務化。行政や地方公共団体等だけではなく、民間事業者など社会全体で取り組むことが明記されています。

そこで、国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)では、この法律施行にあたり、新たな取り組みをスタートしました。設置当初から多様な障がい特性に対応したモデル施設ですが、現状の施設や運営方法、サービスなどを検証し、ビッグ・アイが障がい者はもとより誰もが、より利



検証会での意見交換

「(聴覚)テレビは大画面のほうが、字幕が見えやすい」「(視覚)料理は一品ずつ、食器

用しやすい施設をめざすとともに、民間事業者に対して啓発およびノウハウを提供していこうというものです。

多様な意見から見えてきたこと

2015年12月に「運営の検証会」として、府内の障がい者団体から26名にご協力いただき、1泊2日のモニター宿泊会を開催。ビッグ・アイまでのアクセス、ホテル・レストラン利用、スタッフの接客など、肢体、視覚、聴覚、知的、精神といった多様な障がい種別の方から意見をもらいました。



[田岡秀朋] 春といえは桜。恒例の長野公園の夜桜ライトアップは10日まで。実は、まだ行ったことがないので今年はふらりと行こうかな。



[飯島照喜] 梅は咲いたか、桜はまだかいな。春です。卒業、入学と新たな旅立ちが始まっています。「なび」は一步早く4月号から春を迎えました。



今月の花:ラナンキュラス

花言葉「とても魅力的」
「晴れやかな魅力」
「光輝を放つ」
ラテン語のrana(カエル)を語源とし、湿地を好み葉の形がカエルに似ていることに由来する。



先日またひとりの人が亡くなりました。Bonでの2カ月の就労体験も一生懸命で、そのあとも地下鉄清掃でがんばっていました。本人も喜んでいて、「貯金もしていきます。がんばります。」と言っていた矢先でした。いつもニコニコ笑顔で接してくれていたのに残念です。御冥福をお祈り申し上げます。(なんびとみ)

hidarimaki



「被爆線量根拠無し」「電波停波」などと前座議員の露払い。世論の動向を伺い石垣を築いていく手口。心が醜いよ。美しくなりなさい。

水洩のわらし得意な水遊び

わだちあり夜米に降りししぐれなり

冷やめしを路上で喰らう天下人

肩よせてベンチに老いの雛ならぶ

うつうつとわが血老いくる冬枯木

ジュピターと月一直線なす冬銀河

い湯かげん

大先輩の示唆

民主党政権の失敗と安倍政治の登場、そして橋下維新への惨敗後の「焼土の大阪」を覆っているのは、ダジャレみたいだが、社会運動の政治への「不感症」と、市民との、また社会運動間の「不干涉」で、それがほとんど広がっている。ボクは心配している。そんな焦燥の日々に、社会運動の師と仰いできた横田克己さん(現生活クラブ生協名誉顧問)の難解だが痛切な講演録に出逢った『参加システム』(3月号)。

社会の閉塞感を象徴するテーマに「老後不安」があるが、横田さんは「老後楽観」は可能だと言っている。人は物心ついでから亡くなる直近まで働き続ける。ただし、

「雇用労働」だけでなく「ボランティアワーク」や「コミュニティワーク」という3つの働き方で、それが1つ。人はまた人生を通してお金とつきあう。ただし、お金を「所有」するだけでなく、「回す」というつきあいは見落とさず、これが2つ。そして、人は「人との関係性」のあり様でも人生を大きく変えてしまう、これが3つ。この3つのほど良いバランスが「楽観」の源になる。また、「サービス」には「自分の外にある一つの価値」を「買い取る」という語感があるが、「互助」には「相手と自分の内面も含む複合的価値」を「交換する」という意味があり、それによって始めて

「福祉整合性」が担保される。それに対し、国の「地域包括ケア」は、介護保険の要支援の1と2を自治体に放り出して、失政のツケを「互助」に払わそうという魂胆で、政策破綻を取り繕うある種の「政策偽装」だと横田さんは憤る。だが、横田さんはそこに反転攻勢も見て、①民間資格のソーシャルワーカー育成 ②ワンコインの有償ボランティアのチーム編成、③地域の結節点に「たまり場」を創る、というアイデアを示している。生活クラブの「参加型福祉」30年で培った「場」とソーシャルワークの「技」を、タテ糸とヨコ糸にして地域に落とし、みるというアイデアの根拠も示している。「大阪にも、同和対策事業を経たまちづくり型部落解放運動がある。民間隣保館は先駆けじゃないか」と肩を叩かれた気がした。

政治参加や社会運動の交流もあると理解し、社会福祉法人の「非課税分地域再投資」や、大阪市の「総合区」議論に入札改革を重ねることなどを思い描いた。何とも原理的な議論と思われらるだろうか？しかし、ボクは、橋下旋風の只中の井戸端会議や赤提灯で、そんな硬派な議論が花咲いていたことを何度となく見てきた。硬直して旧態依然だったのは、むしろ維新以外の政党であり、伝統的な社会運動の方だった。3年後の統一地方選挙迎いが目標か、コミュニケーション力を磨いて社会運動の再生に取り組みたいと、あらためて思った。近いうちに、横田さんを訪ねてみたい。

横田 克己 代表取締役
富田 一幸



人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

たのびの 3くふうたま



1～3月は弘前と言う北の大地に数回足を運ぶという経験をした。そこで聞いた心打つ津軽三味線を鳴らす20代の男性は「芸歴15年の“若手”」だと謙遜する。僕も頑張らねば! (安田拓也)

ゆったり6畳2間

ワイワイとにぎやかな商店街を一本折れて、さらに路地を入ったドン突き、少し奥まった静かなところ。

今どき珍しい、昔の風情あふれる築数十年のアパート。でも日々磨かれた廊下やトイレはいつもピカピカで、その一室の6畳2間。

ここに来てはや4か月。引っ越しの日、ご近所さんに荷卸しを手伝ってもらい、さっそくお菓子を持ってごあいさつ。「そんなことせんでええのに～」と、お返しに立派な掃除機をいただいてしまった。お言葉に甘えて、いつかまたお返しができたらと思う。

こんなささいで人懐っこい日常を、「6畳2間」で伝えてゆきます。

[若松司] 岡野玲子の漫画で「剣は鞘に納めておくためにある」と諭された。本音と建て前のグラデーションを生きるための処世術のように思われた。いろんな解釈を許す味わい深い言葉。



[西田吉志] 4月になって新しい年度がスタートしました。28年度は仕事とプライベートでひとつずつ何か新しいことにチャレンジしようと思います。自分のできることをやりたいことをもう一度考えよう。

にっしゅ 飯ユラン

メシ

ミシュランならぬ「飯ユラン」。匿名でなく飯島 (だから飯 (メシ) ユラン) が「店主がおもしろい」、「店の客が楽しい」、「料理が、味がおいしい」の3つの「い」を基準に、西成区内の飲食店などを紹介します。

1 軒目 『居酒屋 秀吉』



「豚足も人気やで」と浜口さん。その隣は娘さん。

「なんといっても、さいぼしや油かすなど西成にこだわった具材があるのがええ。他とはちょっとちやう」と20年近く通っている常連さんの声。店主の浜口さんは2代目。半世紀前に韓国料理店として開店したが、現在では「チゲ料理を中心に、夏は焼き物系、冬は鍋系の料理」と先代の流れを受け継ぎつつ、西成ならではの料理を提供している。「それだけちやうで、刺身など鮮度のいいものもそろえている」と浜口さん。「しゃべりすぎだが、そこがこちよい」と常連さん。具材だけでなく、店主そのものも西成らしさのある、居心地のよい居酒屋さんである。

居酒屋 秀吉
場所: 西成区長橋3-7-23
電話: 06-6568-5362
営業時間: 17:00~24:00
(月曜休み)

あとがき

昨年の『なび』7月号から毎月1度、西成の街を歩いて、表紙に使う写真を撮っています。『なび』に関わるまではほとんど歩いたことのない西成の街にも、少しずつ知っている景色が増えてきました。

現時点でのわたしのお気に入りには北津守界限です。古い建築と、色々な工場が並んでいる姿にトキメキます。これからも新たなお気に入りスポットを探して、縦横無尽に歩きます。(谷口)